

2015年4月3日

## アステラス製薬：MD Anderson Cancer Center との 急性骨髄性白血病を対象としたモノクローナル抗体医薬に 関するオプション契約締結のお知らせ

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦、以下「アステラス製薬」）は、The University of Texas MD Anderson Cancer Center（所在地：米国テキサス州ヒューストン、以下「MD Anderson」）と、急性骨髄性白血病を対象としたモノクローナル抗体医薬の研究・開発に関するオプション契約を締結しましたので、お知らせします。

本提携は、MD Anderson の Stem Cell Transplantation & Cellular Therapy の Professor である Jeffrey Molldrem, M.D.が発見した、ヒト化モノクローナル抗体 h8F4 の急性骨髄性白血病に対する治療薬としての創製を目指しています。一部の急性骨髄性白血病患者さんのがん細胞には、「PR1/HLA-A2」と呼ばれる HLA（主要組織適合遺伝子）抗原ペプチド複合体が発現していることが知られており、h8F4 はこれに特異的に結合し、抗がん作用を示すことが知られています。

本契約に基づき、h8F4 の急性骨髄性白血病に対する Phase 1b 試験完了までの研究及び開発を、MD Anderson が主導し実施します。アステラス製薬は、Phase 1b の試験完了後における、h8F4 の全世界を対象地域とする独占的ライセンスに関する第一交渉権を留保しています。また、アステラス製薬は、本契約期間中、オプション費用及び研究・開発費用の総額として、最大で26百万米ドルを MD Anderson に支払う可能性があります。

アステラス製薬の代表取締役社長の畑中 好彦は次のように述べています。「h8F4 は全く新しい抗がん作用を持つ抗体であり、今回の提携により、急性骨髄性白血病と闘う患者さんに、ファーストインクラスの画期的な治療薬を届けられることを期待しています。今後もアステラス製薬は、アンメット・メディカル・ニーズの高い領域における新薬の創出に、自社研究及び最先端の科学を有する外部のパートナーとの提携を活用しながら注力していきます。」

Jeffrey Molldrem, M.D.は、次のように述べています。「侵襲性白血病に対する既存の治療法は、しばしば毒性が懸念されています。またその予後は良好とは言えず、より安全で有効な治療薬が望まれています。これまで研究から臨床への橋渡しには、多くの困難がありましたが、本提携により、患者さんのもとに、切望される抗体医薬品を1日でも早く届けられることを期待しています。」

また、MD Anderson の President の Ronald DePinho, M.D.は次のように述べています。「本提携は、がん治療に新たなソリューションを提供する MD Anderson の Moon Shots Program の素晴らしい功績の1つです。当センターの研究者がこのような素晴らしい創薬につながる機会を主導していることを大変光栄に思います。現在の骨髄性血液がんへの標準的な治療法は、満足な奏効率が得られていない一方で、今回の h8F4 が有効な治療となることを期待しています。」

以上

お問い合わせ先
アステラス製薬株式会社 広報部 TEL:03-3244-3201 FAX:03-5201-7473 <a href="http://www.astellas.com/jp/">http://www.astellas.com/jp/</a>